



平成 26 年 9 月 10 日

各 位

東 京 都 千 代 田 区 麴 町 三 丁 目 2 番 4 号
会 社 名 株式会社スリー・ディー・マトリックス
代 表 者 名 代表取締役社長 高村 健太郎
(コード番号: 7777)
問 合 せ 先 取 締 役 新 井 友 行
電 話 番 号 03 (3511)3440

**当社ペプチド技術を用いた「トランスフェクション剤（細胞への遺伝子導入剤）」
に関する特許取得のお知らせ**

当社が学校法人日本医科大学と共同で出願しておりました界面活性剤様ペプチド技術について、トランスフェクション剤（細胞への遺伝子導入剤）としての適用に関する特許が日本にて特許が成立いたしましたので、お知らせいたします。

- 【発明の名称】 トランスフェクション剤
【特許番号】 日本特許第 5606318 号
【特許権者】 学校法人 日本医科大学、株式会社スリー・ディー・マトリックス

本特許は、界面活性剤様ペプチドをトランスフェクション剤として利用し、腫瘍組織に核酸（＝遺伝子）を投与する方法に関する特許で、腫瘍細胞への界面活性剤様ペプチドによる核酸の導入が遺伝子発現制御に有用であることが示されております。当該分野に関しては、吉田大蔵 准教授（日本医科大学脳神経外科学）が界面活性剤様ペプチド技術の脳腫瘍への治療応用に関して研究成果を論文や学会で発表しております。また、当社は独立行政法人国立がん研究センターと共同で、当該技術の臨床応用へ向けた医師主導治験の準備を進めております。

細胞への核酸の導入に関する基礎研究では、カチオン性ポリマーやカチオン性リポソーム等のカチオン性のトランスフェクション剤が広く利用されていますが、細胞に対する毒性が知られていることから、細胞毒性が低く患者の負担がより少なく、且つ遺伝子導入効率が良く腫瘍へのより高い治療効果が期待されるトランスフェクション剤の候補に関して、現在も多くの研究が進められております。本特許に示された界面活性剤様ペプチドのトランスフェクション剤としての利用は、その細胞毒性の低さから、脳腫瘍を含む種々の固形がん治療における臨床使用が可能な遺伝子導入方法の候補の一つになります。

当社は今後も本特許を活用して研究開発を進め、有効な医療製品の開発を進め企業価値の拡大を図ってまいります。

なお、現段階においては、本件による本年度以降の業績予想への影響はありません。

以 上